

第12回 小型航空機等に係る安全推進委員会議事概要

日時： 2024年2月26日（月）10:00～11:40

場所： 国土交通省（中央合同庁舎3号館）7階A会議室及びwebによるハイブリッド開催

○委員からの主なご意見、ご指摘

1. 小型航空機等による航空事故等の発生状況（資料1）

- 大型機・小型機に関わらず、事故の原因の大半は基本を怠っていることに起因するものであり、今後も機会を捉えて、基本動作の徹底を浸透させることが必要。
- 昨年、訓練飛行における事故等が数件発生しているところ、教官は教官業務のほか、機長としての業務、及び管制機関との交信や飛行状態の監視といった操縦以外の業務の3役を担っており、教官業務に傾注しないよう機長として最終的な安全確認を行うことが重要。
- 回転翼航空機のマストバンピング等、実際に予期せぬ事態に遭遇した場合の判断能力をどのように付与するかが課題。また乱気流で自機のテールロータを損傷した事例もあるため、広く啓発が必要。

2. 小型航空機等の安全性向上に向けた取組状況及び今後の方向性（資料2）

【安全情報発信強化の取り組み】

- 航空局は積極的に安全情報を提供していると評価するが、メルマガ・SNSに登録していない操縦士に如何にアプローチしていくかが重要。
- 現在、航空局 HP において公開している安全啓発動画等は非常に内容が良いので、ぜひ、操縦士に見てもらいたい。そのための取組として、特定操縦技能審査の際に、操縦技能審査員から紹介してもらうのもひとつの方法である。

【操縦士に対する指導監督強化】

○操縦技能審査員の講習のオンライン化について、多くの操縦技能審査員に参加してもらう点では効果があるが、受講者が適切に内容を理解しているかの知識確認が必要。

【新技術の活用】

- 「FDM ガイドライン」は非常によくできている。FDM の普及促進を図るためには、事故・インシデントの再発防止だけでなく、日頃の運航のレビューによる技量維持・向上や、リスク分析に有用であり、「未然防止」に有効であることを発信していくことが重要。
- ヒューマンエラーをなくすためには、ハード面での支援が必要。航空局も、そのよ

うな新技術の開発・導入の促進を支援してほしい。

- 小型航空機にも事故根絶のためハード、ソフトの面の「多重防護」の考え方は重要。ヒューマンエラーの分析モデルとして複数のバリアの有効性を検証する Bow Tie Model があり、昨年より VOICES でも活用されている。日々の運航において大事に至らなかった事案についても、防護策が機能したかといった観点で分析していくのが良い。
- 小型航空機へのハードウェアの装備には、コスト面も考慮が必要。
- 以前よりも、機内持ち込み品の使用について容易となったが、運航者によっては判断に迷う場合もあるため、機内に持ち込んで使用することが可能な機器かどうかを明確に示すことも検討してほしい。

【その他】

- 能登半島地震対応を受けて、災害時における安全を確保した上での小型航空機を活用した捜索・救援活動についても、今後、本委員会で議論していくと良いのではないかと。

以上